

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

## 【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	三連はしご逆伸び時における中抜け事案
3. 体験した事例の中心的要素	第一てい体と第二てい体を小綱で固定した時に、結索部分が干渉し第三てい体を引き出すことができなくなってしまい、第一てい体と第二てい体の結着部分を引き上げて、第二てい体と第三てい体を保持するときに第三てい体が上部にずれた状態で保持したため。
4. 体験した事例の原因・理由	結索及び端末処理が適切でなかったため。 小綱の操作員との意思疎通ができなかつたため。 主かんが浮いているにも関わらず次の操作をしてしまい、そこでの意思疎通ができなかつたため。 逆伸梯では手及び指が挟まると予測できていなかつたため。

#### 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因 行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)

## 【体験した事例について】

1. 発生日時	令和1年6月29日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外: 庁舎屋上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	(機器等)巻き込まれ、はざまれ
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[ 救助(通常時) ]
8. (7の活動中)どのような作業 中に発生したか	低所救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにど の程度の頻度で体験していま すか。	初めて体験した

## 10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[22]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[22]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動 [ ]、任務 [ ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

## 11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A、当事者B	第二てい体と第三てい体の中間部を保持。	
経過2	当事者B	第二てい体と第三てい体を結着している小綱を操作した。	
経過3	当事者A	若干上部にずれていた第三てい体が約2cm落下して負傷した。	
経過4	当事者A	痛みはあったが、訓練を継続した。	
経過5	当事者A	訓練終了後、当日の隊長代行の方に報告。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

## 【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

資機材の操作がうまくいかなかった 後方からの監視が行き届いていなかった 他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった 他隊(員)から適切な注意を受けられなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	はい

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた(適切な指示を与えられなかつた)。

・活動指示が得られなかつた。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

イレギュラーの事態が発生もしくは、発見したら一旦活動を停止し、複数の目で確認する。

○装備・資機材の対策について

結索する際は、はしごの操作に干渉しない部分を選定する。端末の処理を適切に行う。  
第二てい体と第三てい体を保持するときは、第二てい体と第三てい体をまとめて確実に両手で保持し、第二てい体と第三てい体にずれを生じさせないようにする。

○活動環境の対策について

心理的にも急がなくてはならない部分があり、そういう場面でも日頃の訓練の成果を出せるよう、反復訓練に務める。

○指揮・情報伝達の対策について

活動隊員の行動で危険箇所を常に伝えながら活動する。  
実施していることはどんなに些細なことでも口にし、周囲に周知する。そこで間違いや事故防止につなげる。

## 状況図



第二てい体と第三てい体との間にできた隙間に指  
を入れて保持し、小綱を調整した際に第三てい体  
が落下したと推測される。